

# 教職入門

## 概要

教育の重要性や教師の使命感、倫理観について歴史的視点、直近の教育改革の動向からも学び、教職への理解を深め、授業をデザインする教師の具体的な実践を核に教職の本質を学ぶ。

担当教員	土屋久美
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

教育の重要性や教師の使命感、倫理観について学び、学習意欲の向上や問題行動に対する指導の進め方について、実践的に学ぶことにより教職としての知識・スキル・意欲を修得する。

## 各回の内容

1. 学校教育と教師
2. 教職の意義と教師の役割
3. 専門家としての教師
4. 授業のデザイン
5. 授業から学ぶ
6. カリキュラムをデザインする
7. 子どもを育むー寄り添う・受け取る・、守る
8. 学級経営と教科
9. 現職教育の意義
10. 学習指導要領の役割
11. 分かる授業と教材研究
12. 授業と評価
13. 教職の歴史
14. 教育改革と教師の使命
15. まとめ

## 準備学習（予習・復習等）

教育関連のニュースおよび新聞記事に関心を持つ

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 評価方法

授業への取り組み（リアクションペーパー）40%、レポート提出（20点×3回）60%

## 教科書

秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

## 参考文献

文部科学省「学習指導要領」

# 教育課程

## 概要

教育課程編成の意義や方法について、理論と実践事例を往還しつつ、他者との議論を通して理解を深める。また、教育課程に基づく教育の方法について、理論と実践事例を往還して理解を深めつつ、具体的な技術の習得を目指す。

担当教員	坂本 篤史
授業形態	講義
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1,2年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

## 目標

教育課程編成の目的や方法と、教育方法の理論や実践とを関連づけて、基礎的な理解の構築とスキルの習得を目指す。学習指導要領の改訂やカリキュラム・マネジメントについての理解を深めると共に、今後求められる授業実践の在り方と、その具体的方法などについて、知識を得て、議論し、理解を深める。

## 各回の内容

1. ガイダンス 進め方と評価
2. 教育課程とは
3. 学習指導要領の歴史の変遷
4. 社会に開かれた教育課程
5. 教育課程編成の基本原則と方法
6. 教育課程編成の事例検討 - 教科・領域横断の視点から
7. 教育課程編成の事例検討 - 長期性と地域性の視点から
8. カリキュラム・マネジメントとは
9. これから求められる教育方法
10. 教育内容 教材 子どもとの関連から
11. 求められる学力と学習評価
12. 情報技術を活用した指導と学び
13. 授業実践の事例に学ぶ - 指導技術の観点から
14. 授業実践の事例に学ぶ - 学習指導の観点から
15. 本講義のまとめ：学習指導案の作成

## 準備学習（予習・復習等）

授業で取り上げた問題について、自分の考えを時間をかけて整理すること。  
授業で紹介された参考資料や配布された資料を熟読し、授業で考えた問題についてより多面的に考えを持てるようにすること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 評価方法

教育課程編成の目的や方法と、教育方法の理論や実践とを結び付けて基礎的な理解が構築できたかどうか、またスキルの習得ができたかどうかについて、以下の事項をもとに評価する。

1. 授業における協議への貢献（30%）、
2. 授業中の提出物の内容及び表現（30%）、
3. 講座終了後に提出する最終レポートの内容（40%）

## 教科書

特になし

## 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年3月告示）  
 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）  
 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加奈恵（2011）「新しい時代の教育課程 第3版」有斐閣アルマ  
 秋田喜代美・坂本篤史（2015）「学校教育と学習の心理学」岩波書店  
 佐藤学（2010）「教育の方法」放送大学叢書

# 生徒指導

## 概要

東日本大震災後の教育復興を念頭に置きつつ、これまでの生徒指導について、その課題と在り方について論じる。学校経営や学級経営、学級集団作りを考えていくうえで、学校、家庭、地域の連携に根差したものの見方、感じ方、考え方を養う。栄養教諭としての資質である子どもの発達と家庭生活への対応についても深める。

担当教員	鈴木 庸裕
授業形態	講義
学期	集中
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻 栄養教諭
時間数	90分×7.5回
単位数	1

## 目標

- ・子ども理解を基本として、個性の伸長や自己指導能力の育成、「生き方の指導」について理解し、家庭や地域の諸状況を踏まえた学校における生徒指導の実際に対応する資質能力を高めることができる。
- ・生徒指導をめぐる今日的課題を実践的に学ぶことによって教職者としての資質能力を高めることができる。

## 各回の内容

1. 生徒指導をめぐる今日的課題
2. 生徒指導の理論と方法
3. 学級経営と学習～子どもの学力保障と生徒指導の機能～
4. いじめ問題、非行問題へのアプローチ
5. 不登校問題へのアプローチ、家庭養育への接近
6. 食をめぐる子ども理解
7. 学校が行う家庭支援、学校の福祉的機能
8. 児童虐待と生徒指導
9. 試験

## 準備学習（予習・復習等）

毎回、テキストや講義中に指示した資料をもとに要約レポートを作成して講義に備えること。また、講義中に指示した学術的な論点を講義のまとめとしてレポートにする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています\*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 \*学則第24条

## 評価方法

授業参加状況（50％）、課題レポート（50％）

## 教科書

鈴木庸裕著『教師のためのワークブック・子どもが笑顔になるスクールソーシャルワーク』かもがわ出版

## 参考文献

授業内で指示する